

鎌ヶ谷市生涯学習審議会 令和元年度第1回会議 会議録

◎ 開催日時 令和元年7月24日(水) 10時～11時30分

◎ 会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 3階 集団指導室

◎ 出席委員 12名

篠田繁会長、谷口隆子副会長、石田友和委員、伊藤眞由美委員、今村濃太委員、清松檜男委員、佐藤克己委員、菅井浩樹委員、竹内春美委員、中野洪委員、細井和美委員、森本聡委員

◎ 欠席委員 3名

赤松茂顕委員、有川かおり委員、御代川泰久委員

※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数15名に対し、出席委員12名であり会議は成立した。

◎ 事務局 8名

岩松生涯学習推進課長、渡邊生涯学習推進課長補佐、田中主査、関主事、武田主事補、谷口図書館長、小笠原企画財政課長、小暮企画政策室主査補

◎ 傍聴者 0名

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

会議録署名人については、森本委員、石田委員に決定した。

4 協議事項

①次期鎌ヶ谷市総合基本計画及び鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画に係る意見交換

会長：20年ぶりの鎌ヶ谷市総合基本計画の見直しに伴い、生涯学習に係る施策部分と、個別計画である第4次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画策定とのすり合わせをしていきたい。

～事務局(生涯学習推進課・企画政策室)から資料に基づき説明～

【事前意見を提出した各委員からの説明及び意見交換】

会 長： 市民アンケートでは多くの市民が生涯学習は必要であるという認識があること、それは、生きがいや仲間づくり、地域のつながりにも生きてくるといったことだった。6月の広報でも鎌ケ谷に住み続けたいという人が多いということがでていたので、それを認識して計画を立てた方が良くと思う。また、多くの人を巻き込むために、どこで何を行っているかという活動のPRがなかなか見えていない。PRの仕方を考えていく必要があるのではないか。公民館等の活動する場が老朽化しているので、施設、環境の整備が必要であると思う。

委 員： 一点目は市として重点施策としてこの層に力を入れるということをはっきり出すべき。若い人にもっと重点的に財源を向けていただきたい。

二点目は生涯学習の核は図書館である。幼児向けや一般成人向け図書は充実していると思うが、小学生・中学生・高校生の推薦図書が少ないと思う。学校図書で揃えているという考えもあるが、生涯学習で考えた場合、若い人の本も揃えていただきたい。建物にも限界があるので、図書館と隣の郷土資料館を通路で合体させ、若い人への蔵書を揃えていただきたい。資料館のほうは、隣の建物を購入したということなので一部そちらに移るような形はできないか。予算のこともあると思うが検討をお願いしたい。

委 員： 発想は学習サイクルの視点ですが、やりっぱなし、発信しっぱなしではなく、学んだことを活用する場があり、また学習するという循環システムが大事だと考える。今年はこのことに取り組む等、具体的に3つぐらいだして提示するほうがより市民に理解されると思う。

委 員： 生涯学習という言葉を知らない方、またどこで何をやっているのか知らない方が多い。活動を推進していくためには、活動を周知する窓口も必要。よい活動をしている団体も多いので、それを広める為にPRの仕方を考えた方がよいと思う。

会 長： 活動をつなぐためのPR、コーディネイトの窓口が必要という認識からの提案であると思う。本日、鎌ケ谷高校の赤松校長先生は欠席ですが、昨年あたりから鎌ケ谷高校では、生徒が小学生に書道教室を開いたり、クリスマスコンサートを行うなど、学校が地域に関わることを積極的に取り組んでいて、限界はあるが、地域に関わる活動をやっていきますというご意見もいただいている。

委 員： 財政収入が少ない中で施策を多く列挙しすぎると重要なポイントがぼやけてしまう懸念がある。今後の市の人口予測、年齢層予測を踏まえたうえで重要ポイントを明確に絞る必要がある。また、土地利用のゾーンに沿ってどのような生涯学習施設を配置していくのかを考えていくことが重要だと思う。

民間のスポーツ施設等の機能をうまく生かしながらすみわけをし、足りないものは公の施設でという計画を立てていければよいのではないか。

- 会 長： 他の委員はどうか。今の意見の補足、説明でもよい。
- 委 員： 青少年の健全育成と高齢化が進むので、高齢者の健康増進施策、この2つが重要ポイントになってくると思う。
- 会 長： 昨年の審議会でもこの部分については検討している。理念やキーワードをまとめると“生涯学習の環境づくり”“生涯学習活動の推進”“学習成果を活かす場づくり”の3つが大切ではないのかということになった。具体的な活動については、継続してまとめていけばよいと思う。ただ、一文だと抽象的なので違う文言に変えていくということでもよいと思う。
- 委 員： あれもこれもでは重点がわからなくなる。ここに重点を置くというキャッチフレーズがあれば、みなさんに理解してもらえるのでは。
- 委 員： スポーツ健康都市宣言のようなキャッチフレーズか。
- 会 長： 市全体のキャッチフレーズがあるので、それと被らないようなものにしたらい。
- 委 員： 生涯学習はあらゆる世代が対象なので、「若者」、「お年寄り」に特化させてしまうと、置いてきぼりになる世代がどうしても出てくる。働くことで忙しく参加できないというアンケートの結果もでている。行政はそういう人たちを吸い上げ、その人たちに浸透させるということも役割の1つであると思う。基本計画という大きな指針の中で特化は少し違うのではないか。
- 委 員： 1つキャッチフレーズがあって、色々な枝をつけていくということ。
- 委 員： すでに4つの柱があるので、そこからどうしていくかということだと思う。
- 会 長： 抽象的な部分は、例えば波線など付けて、何をやるかという補足をするイメージが湧くのではないかと思う。
- 委 員： 子育て中の方もこれから老後を迎えるし、今育てている子どもたちも自分たちと同じ世代になる。今忙しくて生涯学習ができない世代というのはとても大事な世代だと思う。子どもたちが大人になった時に、生涯学習を意識していけるようになるためには、親世代に力をいれていかなければならないと思う。
- 会 長： 核家族の問題は相当大きいと思う。昔は3世代同居で祖父母が孫の面倒などを協力したりしていた。こういうことが大切だったのではないか。
また、アンケートの結果をみると同じ鎌ヶ谷市でも、住んでいる地域によって微妙に生涯学習に対する考え方や見方が違うと理解している。
まとめに入りたいと思うが、いかがか。
- 委 員： 基本的にこの4つはいじらないで良いと思う。キャッチフレーズは全体をまとめたものが何かあれば良い。重点施策は、施策1に対して基本事業3を重点的にやる、施策2に対して基本事業3を重点的にやるというような流れの方が良いと思う。
- 委 員： ここに書いてあることはすべて大事なことだが、例えば生涯学習と青少年の健全育成をつなげると、ここでどういうつながりなのかがわからない。生

涯学習といっているにもかかわらず、青少年健全育成の中に基本事業が4つも入っている。総花的すぎてわかりづらい。ただ、これはここで決めるものではなく、ここで出た意見をまとめるのは市の仕事だと思う。

また、鎌ヶ谷市の年齢層は高いので、そのような人をターゲットとした施設をつくるのは仕方がない。それを重点ポイントとするかは市に任せたい。青少年健全育成部分の施設については、基本的には学校だと思う。学校がしっかりやるということが明確になっていればよいと思う。

委員： 生涯学習をやりたいけれどやれない、やろうとしないというのが問題である。我々世代は縦社会をつなぐ教育をやらず、学校の横の教育に任せすぎてしまった。

今の子ども会を見ると、幼児から低学年が多く、高学年は学校などで忙しい。自分が子ども会の面倒見るんだという子ども達を育てていかなければいけないと思う。また、今大きな問題となっている“ひきこもり”も、やりたいと思ってもやれない人をどうやって引っ張り出していくかが問題である。

自治会役員やボランティア活動など、今やっているのはみんな高齢者で後継者がいない。やりたいと思ってもやれない人が多いのではないかと思う。それをどうやって引っ張り出すかが問題である。

委員： 学習は静かにやるだけでなく、会話しながらやっていくのも学習だと思っている。気楽に会話が弾むような部屋をぜひ図書館に作ってほしい。

委員： 生涯学習の環境づくりでいうと、今、コミュニティが崩壊寸前の状況の中、場所ではなく、人と人をつないでいく場を作っていかなければいけないと思う。縦の年齢層をつなぐ施策が必要ではないか。これからを支えてくれる世代は、少ない人数になってきているからこそ、一人ひとりの責任が重くなっていくと思うので、やはりその世代に重点を置いた施策が必要ではないかと思う。

会長： 今、社会教育の総会等でのテーマが「まちづくり、人づくり、つながりづくり」という言い方をしている。つながり、絆が地域活性化等につながる。横の関係、縦の関係のほか、「斜めの関係」が必要と言われている。なくなってきたが大切なものも今、見直されてきている。このようなことも含めて今後の生涯学習の課題、施策としたいと思う。

基本的に柱立ては総花的なものであるもので、これまで検討してきた文言を入れ、キャッチフレーズ等で一般的にわかるようなものは何か、それぞれの柱立ての具体的なものはどんなものなのか、できること、予算がつくもの等を今後検討していくということによろしいか。

~~~~~全員 合意~~~~~

事務局（企画政策室）： 今後、市全体の総合基本計画に関しては、色々な分野を入れ

ていけないといけない。どの分野に重点を置くのかということでは、今は、子育て世代の流入や、教育の充実、安全安心をメインに進めているが、今後12年間どうするかという議論はしていけないと思っている。計画の中には、行政だけではできる範囲が決まっているので、皆さんや地域、家庭と連携していくという考え方を載せないといけないと思っている。生涯学習の分野については、基本的な原則を定めながら、重点的に何をやるかについては議論を踏まえて新たな計画を作っていただきたいと思う。

会長： 本日出された意見については活かしていただき、ここで出た課題についてはアンケート結果も踏まえて、生涯学習基本計画でまとめていくということでもよろしくお願ひしたい。

## 5 報告事項

### ・ 審議会出席状況について

～担当委員から資料に基づき報告～

※別の委員から自身が出席している会議が非公開のため、内容について報告できない旨の発言がありました。

## 6 その他

①表彰者についての報告

②令和4年成人式の対応についての報告

③きらり鎌ヶ谷市民会館及び中央公民館の指定管理者制度導入に向けた進捗状況の報告

④各種研修会等へのご案内

## 7 閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

令和元年8月29日

氏名 森本 聡

氏名 石田 友和